

【児童への話】

先週のプール開きのお話の続きです。

校長先生は小学生のとき、水泳が超絶苦手でした。水に入って、「用意、ピッ」で壁をけて息が続く限り手を動かして、ブハッと顔を上げて立つと、決まって 7m の位置で、皆から笑われていました。恥ずかしかったので、水泳はイヤだなあと、4 年生までずっと思っていました。

そこで、5 年生のときに、「今年は 15m 以上泳げるようになるぞ！」という自分の目標を立てました。そして、その目標クリアのためにどうするか、と考えました。最大の難関は、息つきです。クロールの息つきのときに、どうしても慌ててしまうので、「息つきの時間を長く取るように、腕を大きくしっかり回すこと」を頑張りました。すると、顔がしっかりと水面に出るようになったので、今度は「息を全部出してから吸うこと」を頑張りました。

プールの横の幅から練習をスタートして、何度もくり返してできるようになったので、いよいよ 25m の縦の幅にチャレンジしてみました。「15m 越えられると嬉しいなあ」と思いながら、ドキドキしてスタートしました。いつもの 7m を過ぎ、プールの真ん中の太い線も過ぎたので、もう少しで 15m だと思いながら、夢中で、でも練習どおりに泳ぎました。すると、いつの間にか壁が現れて、タッチしていました。気付くと、25m を泳ぎ切ることができていました。

できてしまえば簡単なもので、今では 1000m でもラクラク泳げるようになっていますが、校長先生にとっては、とても大きな自信になった出来事でした。目標を立て、どういう練習をすればいいかを考え、何度もくり返し練習をして、できるようになったことが本当に嬉しかったんですね。番町小の皆さんには、水泳に限らず、苦手なことでもチャレンジしてみることの大切さと、どんなことでも頑張ったことは必ず自分のためになるということを知って欲しいと思います。自分の目標に向かって、毎日、頑張ってみてください。

今日は、「やりぬくことの大切さ」についてお話ししました。

【本講話について】

本校の教育目標は「考える子」「思いやる子」「やりぬく子」で、これら知・徳・体のどれも大切なものです。私は常々、最近の子は物事に没頭する機会が少ないのではないかと考えています。学習にしる、興味のあることにしる、遊びにしる、自分の限りある貴重な時間をつかっているのですから、何でも本気で真剣にやった方が楽しく、身に付くにきまっています。

ひとつのことを最後まで「やりぬく子」を育てることは、将来的に、自分の仕事を自覚して最後まで責任をもってやり遂げる社会人の育成へとつながるはずで、学校生活のあらゆる場面をとおり、人任せや人の責任にせず、最後まで自分でやり抜こうとする姿勢を身に付けさせていきます。